



2022年11月2日

各 位

会 社 名	大 石 産 業 株 式 会 社
代 表 者 名	代 表 取 締 役 社 長 田 中 英 雄
コ ー ド 番 号	3 9 4 3 東 証 ス タ ン ダ ー ド、 福 証
本 社 所 在 地	北 九 州 市 八 幡 東 区 桃 園 2-7-1
問 合 せ 先	取 締 役 管 理 部 長 大 谷 洋 文 電 話 093-661-6511

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2023年3月期から2025年3月期までの3ヵ年を対象とする中期経営計画を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 策定目的

当社は1925年の創業以来、包装資材の提供を通して豊かな生活の実現、社会や地域に貢献することを基本として、現在はイノベーション活動やTPS（トータル・パッケージング・ソリューション）営業を推進し業績の向上に努めています。

2022年2月に東京証券取引所に上場し、より一層スピードと責任を持って業務にあたり、常に成長し続ける大石産業グループを目指します。

今回の中期経営計画は、2026年3月期の創業100周年に向けたステップとして2022年度をスタートとする3ヵ年の計画であり、イノベーション活動を中心に事業活動のスピードアップを図り、積極的な設備投資を行い更なる持続的な企業価値向上の実現を目指してまいります。

2. 中期経営計画（2025年3月期）の数値目標

- (1) 売上高 238億円
- (2) 経常利益 20億円
- (3) 経常利益率 8.7%

※詳細につきましては、添付資料「大石産業グループ 中期経営計画」をご参照ください。

以 上



大石産業グループ 第7次中期経営計画 2023年3月期～2025年3月期

証券コード：3943

2022年11月2日

当社グループは、2023年3月期から2025年3月期の3年間に亘る第7次中期経営計画を策定いたしました。

当社は2022年2月に東京証券取引所に上場いたしました。2025年の創業100周年に向けて、今後はイノベーションを中心とした活動を展開し、更なる持続的な企業価値向上の実現を目指してまいります。

大石産業株式会社

代表取締役社長 田中英雄

1. 大石産業について
2. 第6次中期経営計画 振り返り
3. 第7次中期経営計画

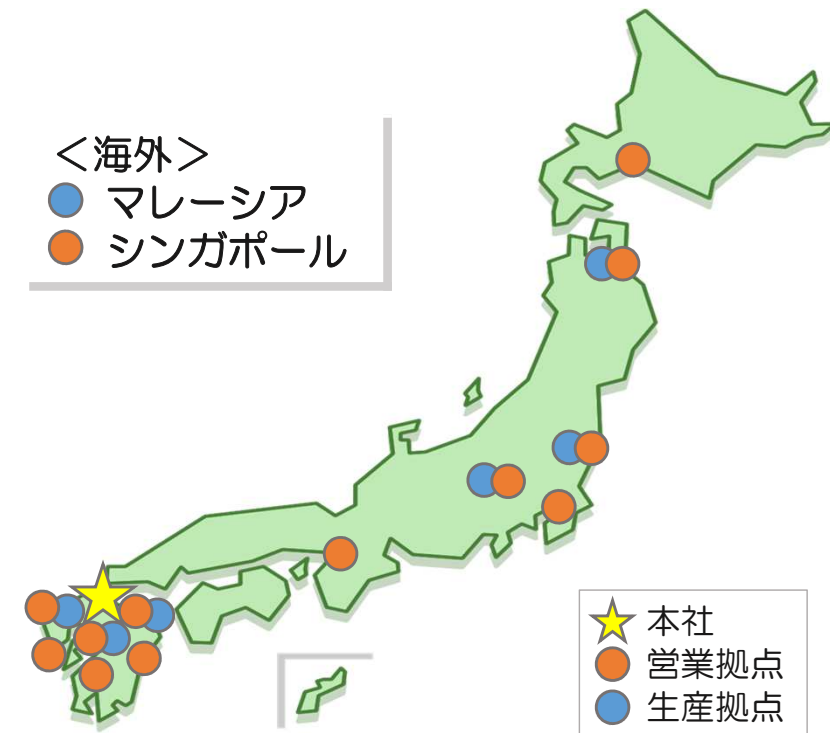
1. 大石産業について

大石産業について

当社は、1925年に北九州市で創業し、永きにわたりモノづくりに携わってきました。

包装資材の総合メーカーとして、パルプモールド、フィルム、重包装袋、段ボールを製造販売しており、日本全国と、海外はマレーシア・シンガポールに拠点を置いております。

約100年の実績と経験で培ったノウハウと、包装資材の総合メーカーとしての技術力や提案力を活かし、お客様への最適包装を目指し日々活動しています。



創業

97 周年

もうすぐ100周年!



パルプモールド

国内シェア

No.1



ポリスチレンフィルム

国内シェア

No.1



顧客のために

常に新しく価値ある商品・サービスを提供する

従業員のために

働きがいのある豊かな生活を実現する

投資家のために

成長分野で、優れた業績を約束する

社会のために

社会と地域に有用な存在となる

地球環境のために

地球環境の保全に貢献する

2025年 創業100周年へ



2022年 東京証券取引所 市場第二部に株式上場
※現スタンダード市場

1990年 重包装袋の海外生産を開始

1980年 福岡証券取引所に株式上場

1967年 フィルムの製造・販売を開始

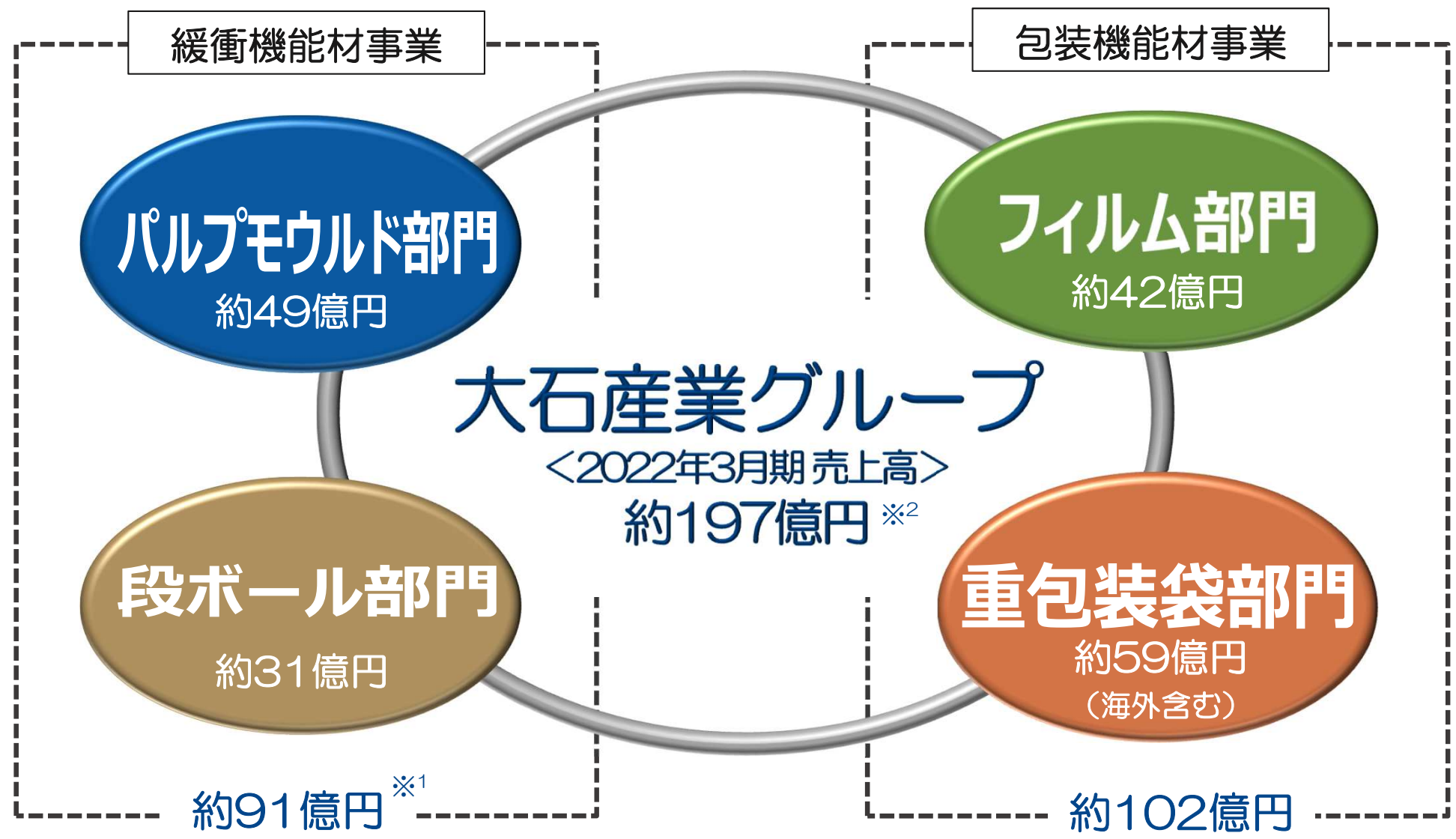
1963年 パルプモウルの製造・販売を開始

1953年 段ボールの製造・販売を開始

1949年 重包装袋の製造・販売を開始

1925年 福岡県八幡市（現 北九州市八幡東区）にて大石商店 創業





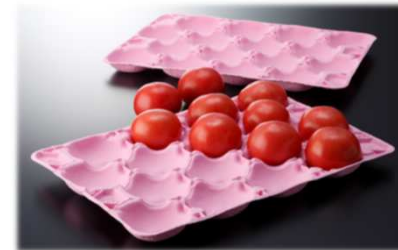
約91億円 ※¹

約102億円

※¹ 成型部門 約9億円含む
※² その他 約3億円含む

緩衝機能材事業

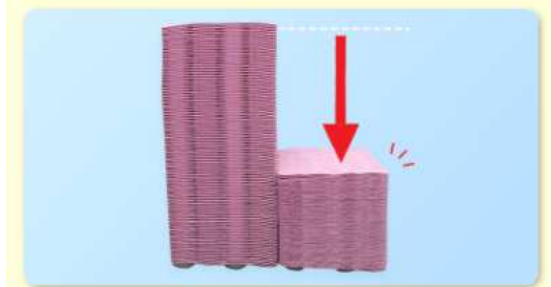
- パルプモールド
鶏卵トレー等 (畜産用)
青果物トレーおよびポット (農業用)
輸送用緩衝材 (工業用)
- 段ボール
段ボールケース (農畜産用、食品用、工業用)
段ボールシート (製函用)
- 成型品
ゆりかご (食品用)



包装機能材事業

- フィルム
ポリスチレンフィルム (食品用、工業用)
各種プラスチックフィルム (食品用、工業用)
- 重包装袋
大型クラフト紙袋 (合成樹脂用、化学薬品用、製粉用、飼料用)
ラミネート製品 (大型クラフト紙袋用) 他





トマトLsトレー

- ・軽量化により従来の梱包寸法から約6割削減
- ・2016年日本パッケージングコンテスト入賞



花菜ポット

- ・紙製のため土に還る製品
- ・通気性があり、猛暑時の地温上昇を大幅に緩和

- ・パルプモールドは新聞や段ボール古紙をリサイクルして作る、SDGsに資する製品です。
- ・「トマトLsトレー」や「花菜ポット」など環境に優しい製品の開発も行っています。
- ・他にも、災害時の段ボールベッドの提供や、コロナ禍で普及したパーティション（段ボール＋フィルム製）の提供なども、継続的に行っています。

14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために、
海洋・海洋資源を保全し、
持続可能な形で利用する

古紙回収の取り組み

地域や近隣の企業様と連携してオフィス古紙回収を行っています。機密古紙の回収も万全の体制で行っています。



15 陸の豊かさを守ろう

陸域生態系の保護、回復、
持続可能な利用の推進
生物多様性の損失を阻止する

移動式リサイクル工場

地域の子ども達にリサイクルの仕組みを知ってもらうため、移動式リサイクル工場でパルプモウルの啓蒙を行っています。また、北九州市と連携し各種環境イベント等にも参加しています。



12 つくる責任 つかう責任

持続可能な消費生産形態を
確保する

リサイクル学習会

地域の小学生に対して、当社のリサイクルに対する取り組みについて楽しく学べる工場見学を実施しています。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

包摂的かつ持続可能な
産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る

日本パッケージングコンテスト 8年連続入賞

イノベーション活動を継続的・積極的に行っており、その結果、日本パッケージングコンテストにて8年連続入賞を果たしました。



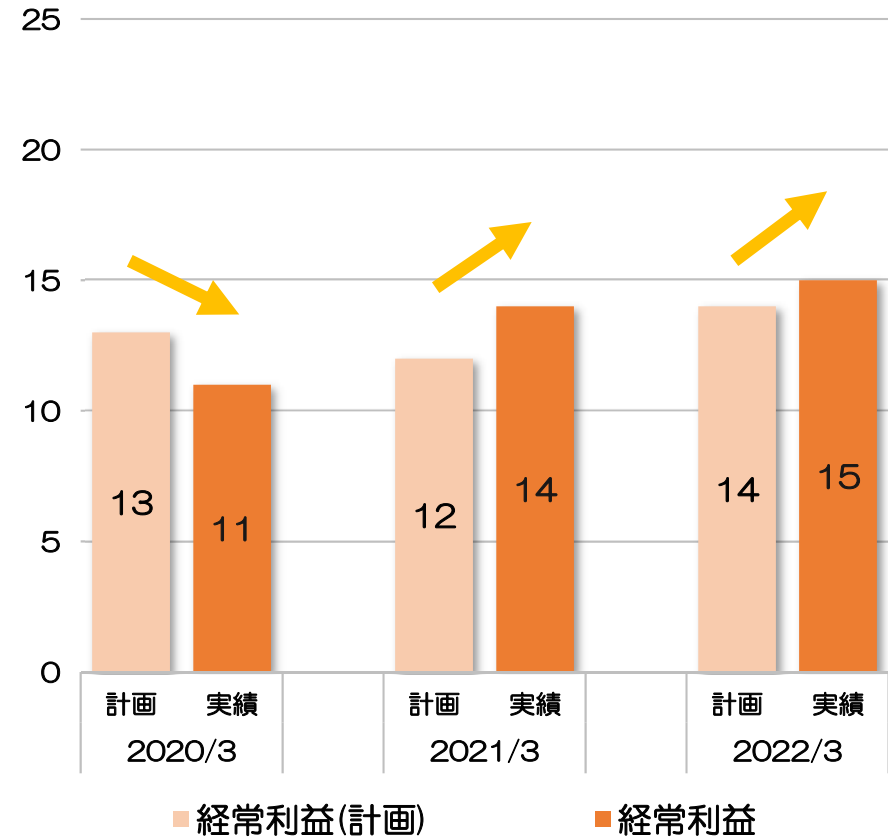
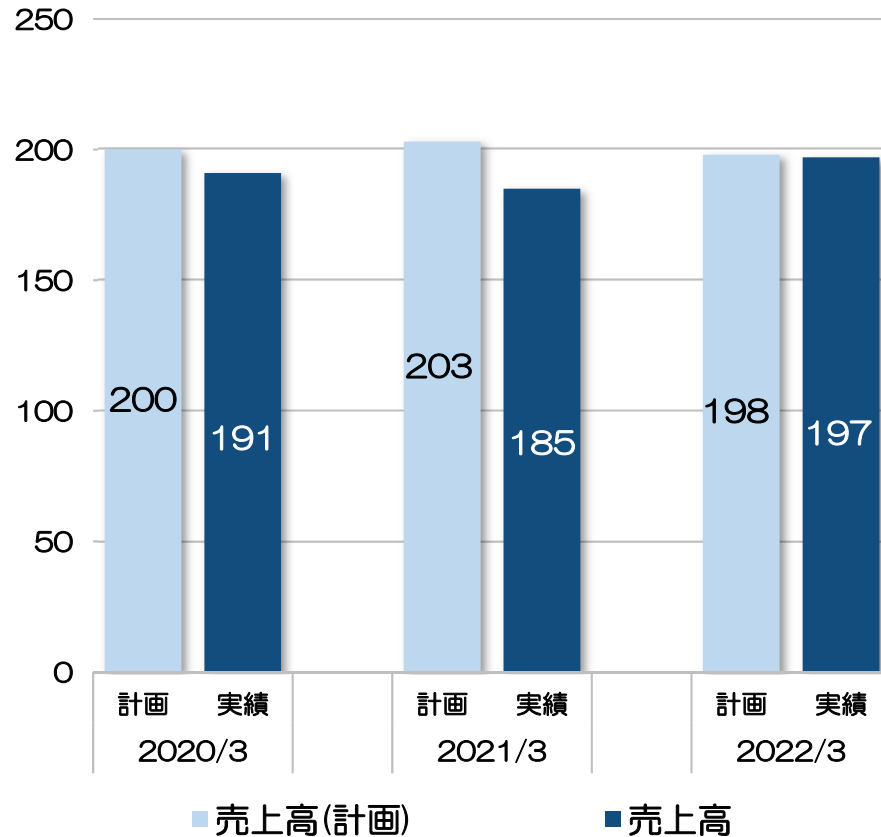
※2021年受賞【北海道メロントレー】
(長円形・球形、両形状のメロンを収納できる兼用型トレー)

2. 第6次中期経営計画 振り返り

(単位：億円)

売上高

経常利益



- 売上高は、コロナウイルスの感染拡大および影響の長期化による事業環境の変化もあり未達となりましたが、2022年3月期はここ20年間で過去最高となりました。
- 経常利益は、15億28百万円となり、2022年3月期は過去最高水準となりました。
- 第7次中計では、更に高い目標を掲げて事業活動を邁進してまいります。

戦略	振り返り	第7次中計への展開
〈パルプモールド〉 新用途、新分野の 創造	在宅・テイクアウト需要の高まりを受け、パルプモールドの新用途として、食品容器向け製品を開発した結果、生協で一部採用となりました。	<ul style="list-style-type: none"> 食品容器分野への更なる展開を図ります。 環境意識の高まりを受け、化成品のパルプモールド化に向けて、継続して開発および新規獲得を行ってまいります。
〈フィルム〉 事業の更なる拡大	従来の食品容器向けに加え、工業分野向けキャストフィルムの新製品を開発し、新規需要を獲得しました。また、試作機を導入し開発体制の整備を行いました。	引き続き新規需要を獲得するために、環境配慮型フィルムなどの開発活動を早めております。
〈フィルム〉 「食品」分野での 競争力向上	既存市場の深耕に向けて光沢性、耐熱性、耐寒性を高めた食品容器向けフィルム新製品を開発し、受注を獲得しました。	顧客ニーズに応えるべく、大型設備投資を行い生産能力の増強を図り、冷食向けフィルムの開発を進めてまいります。
〈重包装袋〉 海外市場展開の加速	最新設備を導入し競争力確保に努めましたが、米中貿易摩擦による中国経済の鈍化や新型コロナウイルス感染拡大により競争が激化したことから、目標は未達となりました。	マレーシア・タイ・インドネシアにターゲットを絞り、得意とする密封性能に磨きをかけて拡販してまいります。

第7次中計の成長戦略も市場にマッチした活動を行い、業績向上に邁進してまいります。

<p>古紙回収</p>	<p>古紙不足への対応と、その活動を通じて地域貢献を果たすことを目的とし、地域や近隣の企業との古紙回収を開始しました。</p>				
<p>省エネ対策</p>	<p>太陽光発電を導入しクリーンエネルギーの推進を行い、また、パルプモールド乾燥炉の改善など省エネ対策を施し、CO2削減に取り組んでいます。</p>				
<p>人事制度改革</p>	<p>社員のより豊かな生活の実現のため、また、若手・シニア社員など多様な人材が活躍するために、給与水準の見直しや評価制度の充実など人事制度改革を行いました。</p>				
<p>重包装袋 一気開封袋開発</p>	<p>開封する際に従来使用していたプラスチック製カットテープをなくした製品を開発しました。脱プラ、ゴミレス、作業性向上に繋がります。</p>				

当社の企業理念そのものがSDGsに資するものになっており、今後も17のゴールを見据えてバランスよく事業活動を行ってまいります。

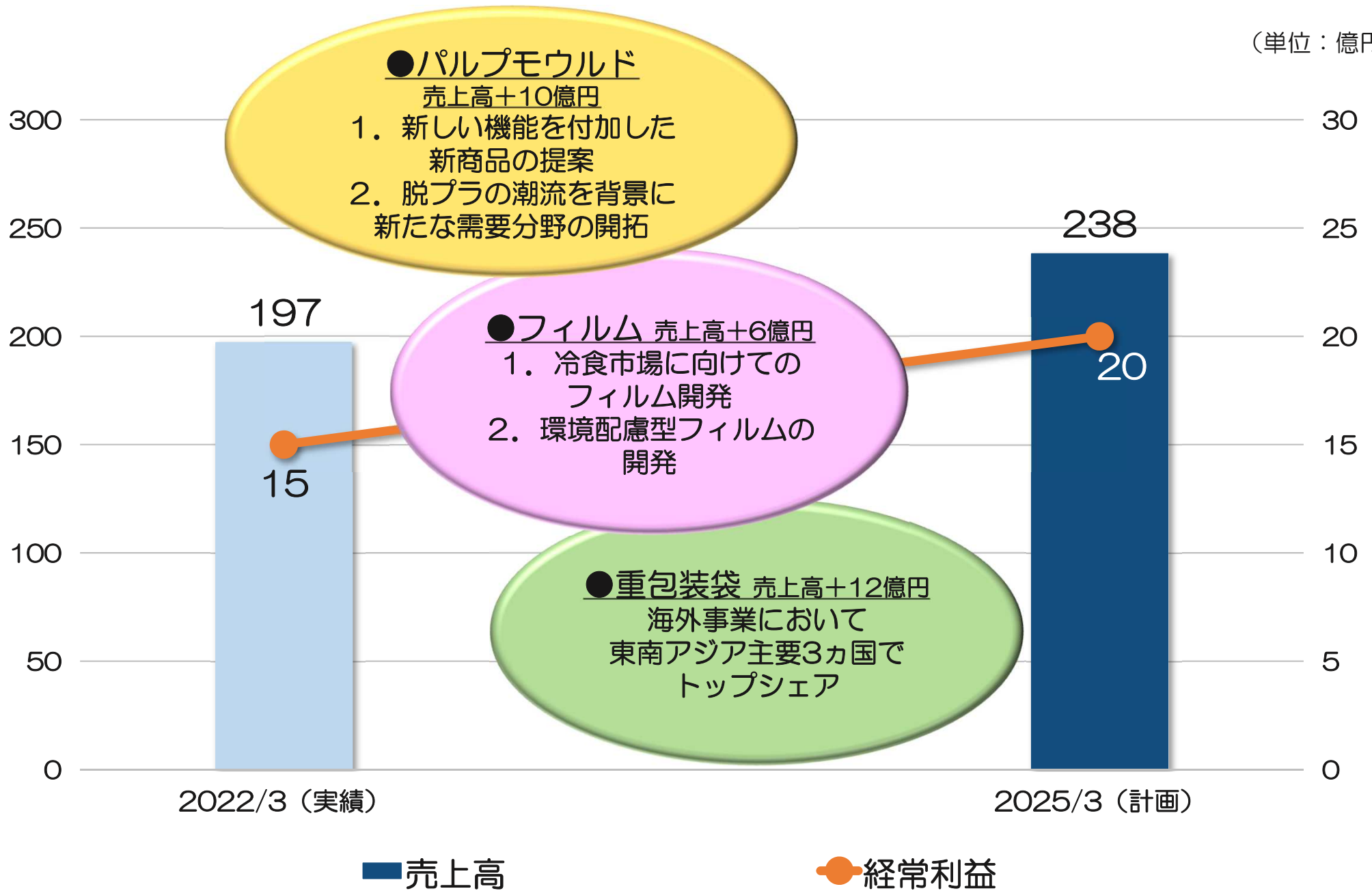
3. 第7次中期経営計画

＜中期経営計画 経営方針＞

- パルプモールド、フィルム、重包装袋、段ボールの主要の4製品における事業課題解決のスピードアップを図り、早期に計画を達成する。
- イノベーション活動を核に、積極的な設備投資を行い、製品事業の成長を推進する。
- 脱プラ、脱炭素の潮流に沿ったSDGsに資する活動や製品開発を進める。
- 社員にとって働きがいのある職場環境を整備し、社員と共に会社の発展を目指す。

	2022年3月期 (実績)	2025年3月期 (中計最終目標)	増減
売上高	197億円	238億円	+41億円
経常利益	15億円	20億円	+5億円
経常利益率	7.7%	8.7%	+1.0%

(単位：億円)



パルプモールド

1. 既存製品に美粧性などの新たな価値を付加した新商品の提案を行なってまいります。
2. 脱プラに向けて、食品分野や青果物分野で新たな需要の開拓を進めてまいります。



段ボール

1. 新設備を導入し、高品質および生産性向上の更なるレベルアップを図ります。
2. パルプモールド製品等との複合提案で競業先との差別化を図ります。

フィルム

1. 食品・電材・ヘルスケアなどの成長市場向けフィルムの増販を行ってまいります。
2. リサイクル・バイオなどの環境配慮型フィルムの開発を進めてまいります。

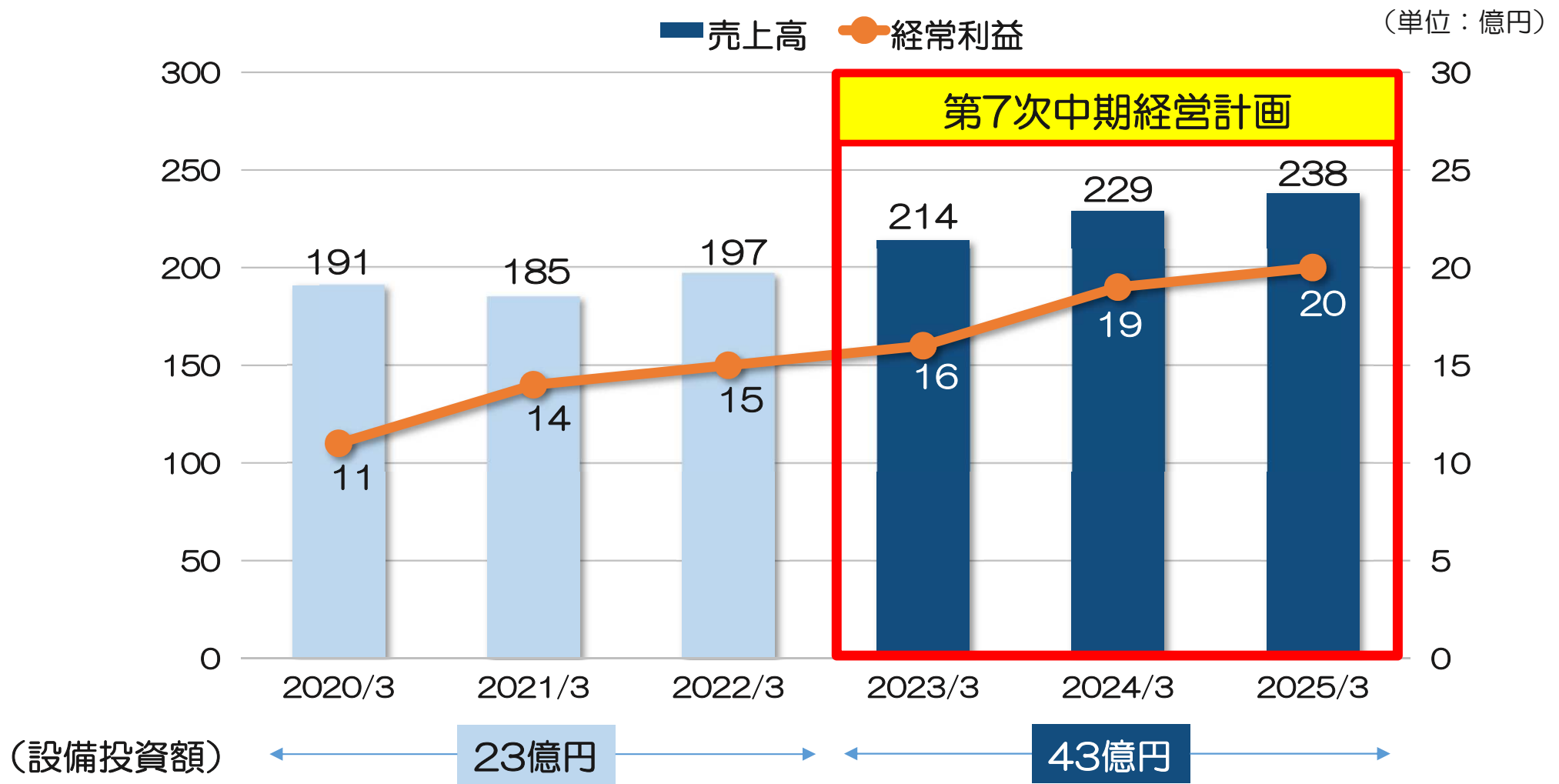


重包装袋

1. 機械貼袋において、密封機能の向上と高品質化を進めてまいります。
2. 脱プラに資する戦略製品を拡販してまいります。
3. 海外市場では、当社の強みである密封性能に磨きをかけ、食品・合成樹脂市場への拡販を行なってまいります。



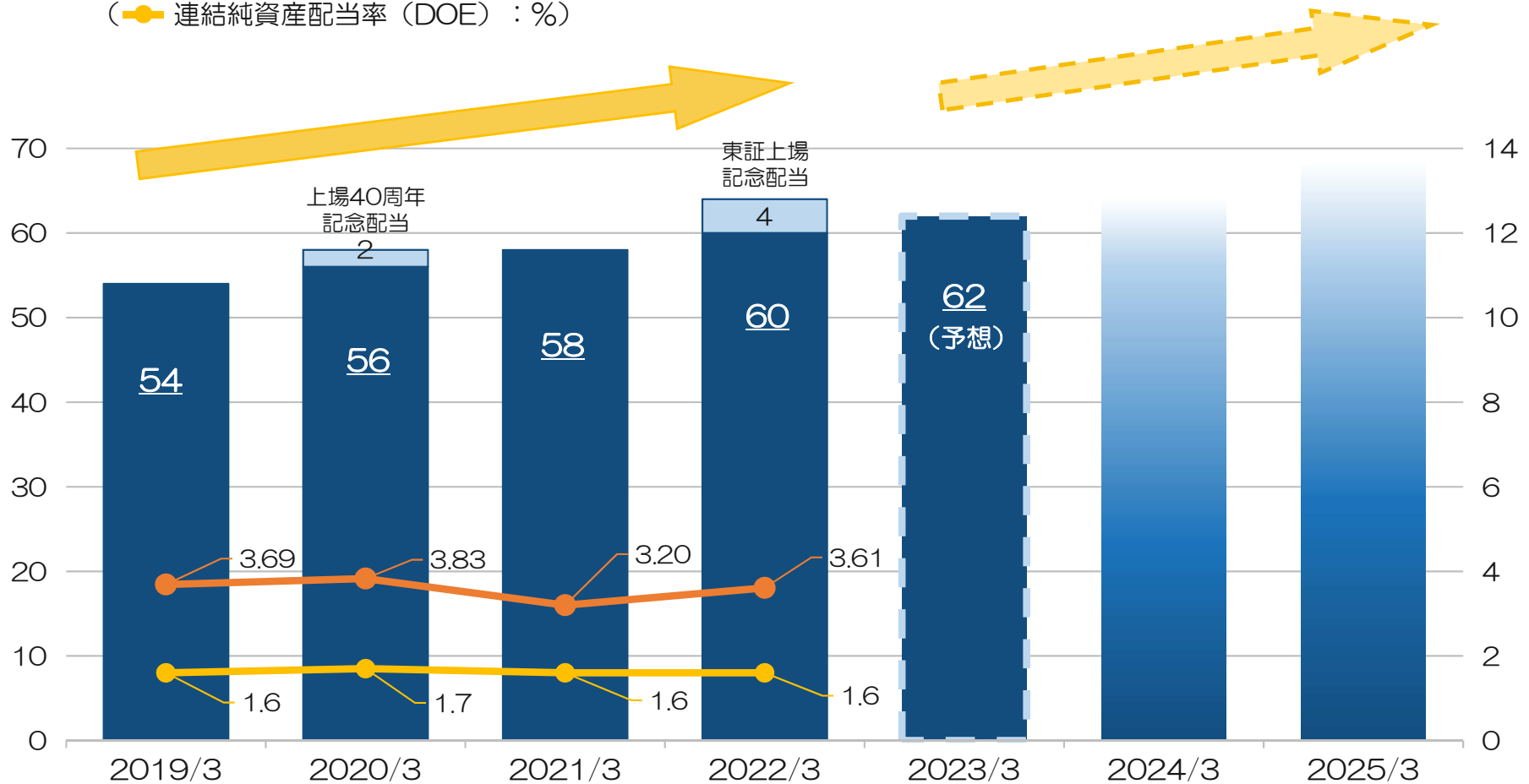
2021年より、社員のより豊かな生活の実現のため、人事制度の見直しを行い、今後も引き続き、働きがいのある職場環境作りを推進してまいります。



- パルプモールド、フィルム、重包装袋、段ボールの主要4製品における事業課題解決のスピードを図ってまいります。
- 設備投資については、パルプモールド事業、フィルム事業において新設備導入など積極的な設備投資を行い、製品事業の成長を推進してまいります。

配当の推移

1株当たり配当金 (■普通配当 ■記念配当：円)
 (●配当利回り：%) ※期末終値で試算
 (●連結純資産配当率 (DOE)：%)



当社グループは、生産性の向上等による利益体質の強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、連結純資産配当率 (DOE) 1.5%以上を目安に、安定的に配当を実施する方針としております。

社名	大石産業株式会社
創業	1925年（大正14年）
設立	1947年（昭和22年）2月
所在地	〒805-0068 福岡県北九州市八幡東区桃園二丁目7番1号
資本金	466,400,000円
決算期	3月
従業員数	333名（グループ 531名） ※2022年3月末時点
連結子会社	株式会社アクシス、CORE PAX(M) SDN.BHD. ENCORE LAMI SDN. BHD.、柳沢製袋株式会社
上場証券取引所	東京（スタンダード）、福岡

大石産業株式会社

OHISHI SANGYO CO., LTD.

本資料の将来に関わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれています。

また、実際の業績は経済情勢の変化、法的規制の変化、自然災害等により変動する可能性があります。